

FOA-NEWS

通算第 37 号

2016/2/20

笹田英次氏、故・水田吉春氏、殿堂顕彰に

喜入 博

去る1月3日、東京ドームで開催された第69回ライスボウルにおいて、これまでの我が国のアメリカンフットボールの発展に永年貢献された新たに11名の方々が、「アメリカンフットボールの殿堂」(清里)にその功績をたたえられ殿堂入り(顕彰)されました。11名には、関東審判部の活動に大きく貢献された笹田英次氏、故・水田吉春氏のお二人も選ばれました。

1934年から始まった競技活動を80年間グラウンドで支えてきた諸先輩を含む多くの活動の成果が認められたものとして、部員として、大変、誇りに思うと同時に、部員一同皆さんでお祝いを申し上げたいと思います。FOAニュースの場をお借りして、お二人の功績、今回とこれまでの顕彰者、そして清里の殿堂に関してまとめました。

◆笹田英次氏のご紹介



笹田英次氏は、東京都立西高校にてタッチフットボール部に入部しフットボールの道を歩み始め、同校卒業後、日本大学に入学しアメリカンフットボール部で4年間、ガード・エンドとして活躍されました。篠竹幹夫元日本大学監督(故人。2004年殿堂顕彰)とは同期で、1955年4年生で主将として日本大学の甲子園ボウル初優勝に貢献されました。

日本大学卒業後、1956年に関東地区で高校、大学の試合の審判員としても活動を開始され、1960年からは関東審判部の運営に参画、当時の安藤信和部長(故人。2004年殿堂顕彰)を支え

る若手審判員として幅広い運営活動をされ、1964年の日本アメリカンフットボール審判協会設立に寄与されました。また関東高校連盟では審判員として活動すると共にタッチフットボールからタックルフットボールの導入に当たって高校独自のルールの検討、適用、そして関東地区の高校連盟の審判組織化を進められました。

関東審判部副部長として関東審判部の組織化、日本の東西ルール解釈の統一化、NCAAからの最新メカニクスの導入、そして関東審判部理事会の組成など、長年に渡って関東審判部の活動を推進され、関東地区のアメリカンフットボールの普及に貢献されました。審判員としては50年以上の経験を持っておられ、現在も関東審判部技術委員としてグラウンドでの審判員の評価を実施し、若手審判員の育成にご尽力いただいております。

1997年には日本協会理事長に就任、米国を初めとして海外組織との積極的な交流を推進され、1999年IFAF設立と同時にIFAF初代プレジデントになられ、アメリカンフットボールの世界的な規模の普及活動に携わってこられました。1999年にイタリア・パレルモで開催された第1回アメリカンフットボール世界大会を開催のためにIFAF初代プレジデントとして奮闘され、歴史的に記念すべき第1回大会を成功裏に開催するとともに、日本代表が第1回優勝チームとなったことも、笹田英次氏の永年に渡るアメリカンフット

ボール普及への情熱の結果と言えます。

また我が国におけるアメリカンフットボールの発展には、小中学生、女子に対する浸透、普及が重要と考えられ、日本フラグフットボール連盟理事長としてフラグフットボールの普及、発展に寄与されています。

私が笹田英次氏と初めてお会いしたのは、笹田さんは覚えていらっしゃると思いますが、私の烏山工業高校時代の都立西高との練習試合

でレフリーとして試合をしていただいたときです。弱小チームと強豪校である西高との対戦でしたが、丁寧に教育的観点も踏まえてジャッジしていただいたことを覚えております。その試合でフットボールの審判員の活動を初めて知り、その後の私の審判活動、関東審判部での組織運営の活動でも、広い見地からのご助言、ご指導をいただきました。

◆水田吉春氏のご紹介



水田吉春氏は、麻布高校入学後、タッチフットボール部で入部され、現関東審判部の深川一馬さんと同期で活躍され、同校卒業後、立教大学に進学しライスボウル出場などで活躍されました。同校卒業後、立教大学の先輩である故・安藤信和氏に誘われ 1961 年に日本アメリカンフットボール審判協会関東審判部に入部、以降、40 年以上に渡って審判員を通じて日本のアメリカンフットボールの普及、発展のために貢献されました。

1965 年に設立された日本アメリカンフットボール審判協会の理事長の安藤信和氏が関東審判部長兼務であったときに、笹田英次氏とともに水田吉春氏が安藤信和氏の補佐役として支え、1972 年には関東審判部副部長、そして 1976 年には関東審判部部長に推されて就任されました。

関東審判部長とし、就任早々、今後の日本および関東地区でのアメリカンフットボールの発展を見越し、その発展に対する審判組織の組織活動化、組織拡大化、審判員としての能力・技術力強化、公式規則への知識向上が重要と考えられ、その確立、推進に寄与され、以降、急激に拡大する関東審判部の組織を 15 年間にわたり、まとめられました。同氏が構築された審判活動の基盤は、

現在でも受け継がれています。

この関東審判部長時代には、関東審判部のみならず日本全体での審判組織の強化、スキル向上が重要と考えられ、関西審判部との交流を深めるとともに北海道、東北、信越地区の審判組織化の支援、クリニックの相互参加の仕組みを確立されました。

また関東審判部の活動とともに公式規則の制定、改正、普及、周知に貢献され、1974 年、競技規則委員に就任すると同時に、当時、1970 年発行以降途絶えていた公式規則書の発行を計画され、作業主体の関東審判部の要員を指導し、1975 年に公式規則書を発行されました。1991 年、関東審判部の活動を後進に譲り、関東学生アメリカンフットボール連盟理事長に推されて就任され、加盟校が 100 校を超えた大組織の運営を理事長として指揮、多くの課題を解決されるとともに円滑な競技活動を推進されました。理事長として試合会場の利便性向上、チーム指導者向け講習会を開催し、プレーヤーが安全に競技できる環境作りを推進されました。

長女の水田光美氏は、タイマーとして日本で 2 人目となる女性の公式審判員として関東審判部でご活躍されました。2002 年ころより、病に伏され闘病生活を送られましたが 2004 年 5 月 21 日、逝去されました。1 月 3 日の東京ドームでの顕彰式典では、奥様の水田芳美様がお出席になり、顕彰を受けられました。

私は水田吉春氏の関東審判部の部長としての 15 年間、副部長、理事として一緒に活動をさせていただきました。水田吉春氏は関東審判部を組織的活動として運営されていく方針を明確にするとともに、フットボール界で生じる様々な課題を、関係する組織団体と調整を図り、円滑に進められました。今回の顕彰を天国でお喜びになられていると思います。

◆今回の顕彰者のご紹介

今回、顕彰された11名の方々は、次の方々です。このご紹介の文章が、顕彰盾に、肖像とともに刻印されました。



加納 克亮(かのう・かつすけ)

1903～1971年

朝日新聞運動部記者/東京学生連盟理事/関東協会理事長

立教大学在学中はラグビー部の主将。朝日新聞入社後、運動部記者としてアメリカンフットボール担当。東京学生米式蹴球連盟設立に理事として参加。記者として紙面を通じ競技の紹介を幅広く実施、アメリカンフットボールがスポーツ界で一定の地位を占めることに貢献。朝日新聞社の1935年の全米選抜チーム招請と翌年の全日本選抜チームの米国遠征を推進。1946年、リーグ復興のための関東連盟創立委員会委員長に就任。以降3年間、関東連盟理事長。没後の1972年、永年の功績により、ライスボウル東西学生選抜戦に加納杯が制定される。

花岡 惇(はなおか・じゅん)

1912年～没年不詳

明治大学監督/東京学生連盟役員

ハワイ生まれ日系2世。明治大学入学後、部創設の中心的役割。1934年、我国最初の公式試合に出場し、その後もオールスター級の活躍。卒業後、連盟役員、監督として継続的に活動。1940年代、同志社、関西大学を指導。1947年から1962年まで16年間、監督として明治大学を率いる。同時に1949年よりライスボウル東西学生選抜戦の監督として10数年活動する。米国からの最新情報と戦術を我国に広く紹介するとともに、ライスボウルで交流した各大学コーチに伝え、フットボールの本質を広めることに貢献する。

三隅 珠一(みすみ・しゅいち)

1924～1975年

日本タッチフットボール連盟/日本協会

1945年、1日制大阪府立池田中学校に体育教官として着任。タッチフットボール部顧問として、チーム育成に尽力。同年日本最初の公式タッチフットボール試合を開催。甲子園ボウルで、東西タッチフットボール王座決定戦を実施。1954年、全国高校タッチフットボール大会開始、1970年、全国高校アメリカンフットボール大会開始と高校フットボールの組織づくり、公式規則書の制定、翻訳等の作業実施に尽力され、日本の高校フットボールの普及・発展に貢献。永年の功績により、クリスマスボウル全国高校選手権の最優秀バックスに三隅杯が制定される。

樋口 廣太郎(ひぐち・ひろたろう)

1926～2012年

アサヒビール株式会社名誉顧問/日本協会初代コミッショナー

1986年、アサヒビール株式会社代表取締役社長に就任。1988年以降、社会人クラブチーム「シルバースター」を後援し、多年に亘りチームをスポンサード。財界人として、日本フットボール界に様々な支援や普及貢献活動を行い、アメリカンフットボールの文化を、広く一般社会に発信してその価値を広報した。その後、日本アメリカンフットボール協会の初代コミッショナーに就任。協会活性化に取り組み、アメリカンフットボールの普及振興に大いなる支えとなり、貢献した。2012年、旭日大綬章受章。

藤村 重美(ふじむら・しげみ)

1931～2007年

市立西宮高等学校監督/兵庫県高等学校体育連盟初代理事長/京都大学監督

京都大学在学中は選手として活躍。卒業後、市立西宮高等学校の教壇に立ち、タッチフットボール部を創部指導。創部5年目の1962年、関西学院高等部の連勝記録(204連勝)を阻み、その後、2年連続全国制覇を果たす。その傍ら、1958年、兵庫県高等学校体育連盟にアメリカンフットボール競技が加盟するとともに同連盟の初代委員長として組織の礎を築く。高校フットボールがタッチフットボールからアメリカンフットボールへと移行する過程で、日本の高校フットボールの牽引者として普及に貢献。また、1965年京都大学監督に就任、京大フットボールのばックボーンを築いた。

武田 建(たけだ・けん)

1932年～現在

関西学院大学監督/関西学院高等部監督
 関西学院高等部よりフットボールを始め、1950年より4年間QBとして甲子園ボウルに出場、優勝2回。卒業後、北米留学で得た最新戦術を日本に紹介し、日本フットボールの近代化及び発展に貢献。1966年から関西学院大学のヘッドコーチ・監督として11年間指導し、その間に7回の甲子園ボウル優勝、5連覇に導く。1980年からは高等部監督として、6回全国制覇を果たした。1970年代より本場フットボールのTV解説や入門書刊行により、一般への普及、競技者・ファンの拡大に繋がった。心理学者としてもチーム運営・指導方針を理論的に解き明かし、多数の書籍を出版、日本スポーツ界の健全な発展に寄与した。

笹田 英次(ささだ・えいじ)

1934年～現在

国際アメリカンフットボール連盟初代会長/日本フラッグフットボール連盟理事長
 都立西高等学校でタッチフットボールを始め、日本大学で活躍。1956年、日本アメリカンフットボール審判協会関東審判部に加入、1960年から運営を担当し、競技規則の制定、審判員の技術力向上に寄与。米国等海外組織との交流を推進し、1999年、国際アメリカンフットボール連盟設立時に初代会長に就任。同年の第1回ワールドカップの開催と成功した運営に貢献。その後、日本フラッグフットボール連盟理事長を務めるなど、小中高、大学、社会人と普及に幅広く活動する。

水田 吉春(みずた・よしはる)

1937～2004年

日本審判協会・関東審判部長/日本協会常務理事/日本学生協会理事長/関東大学連盟理事長
 麻布高等学校でタッチフットボールを始め、立教大学で活躍。1961年に日本アメリカンフットボール審判協会関東審判部に入部。1972年、同審判部副部長、1976年、同部長に就任。発展する競技活動に対応する審判活動の組織化に貢献。公式規則の制定、公式規則書の発行を推進する。1991年、関東大学アメリカンフットボール連盟理事長に就任。大組織の運営を指揮し、円滑な競技運営を推進するとともに、試合会場の確保、各種講習会の実施等、競技活動、運営に活躍。また日本アメリカンフットボール協会常務理事、日本学生アメリカンフットボール協会理事長として、全国レベルでの普及に寄与する。

水野 彌一(みずの・やいち)

1940年～現在

京都大学監督/第1回世界大学選手権・日本代表チーム監督
 1959年、防衛大学校に入学しアメリカンフットボール部に入部。1961年、京都大学入学、ガードとして活躍し、卒業後、コーチ就任。1980年監督就任後、関西学生リーグ優勝10回、甲子園ボウル優勝6回(出場8回)、ライスボウル優勝4回(出場6回)を成し遂げた(2011年勇退)。関西学院大学との対戦は、数々の名勝負を繰り広げ、アマチュアスポーツのビッグイベントとなり、国立大学全国制覇で全国的な注目を集め、普及・発展に貢献。また、2001年京都市教育委員に就任、その後、教育委員長となり、教育行政にも寄与した。2014年、第1回世界大学選手権・日本代表監督就任(準優勝)。

阿部 敏彰(あべ・としあき)

1941年～現在

アサヒビールシルバースター監督/世界選手権・第1～3回日本代表チーム監督
 日本大学在学中は選手として活躍し、4年生時、主将として甲子園ボウル3連覇に導く。1970年、社会人クラブチーム「シルバースター」創部、監督就任。1988年、アサヒビール株式会社とスポンサー契約締結後、1989年、クラブチームとして初の社会人王座獲得。その後、ライスボウル優勝3回、社会人フットボールを代表するチームに発展させた。1998年、日本代表監督として、ジャパンユーロボウル快勝、翌年から始まった第1回ワールドカップも2007年第3回川崎大会まで、代表監督として指導・育成に貢献(第1・2回:優勝、第3回:準優勝)。また、1978年、地域のフットボール普及を目的に横浜アメリカンフットボール協会創設。

棚橋 寛衛門(たなはし・かんえもん)

1947～2005年

日本社会人協会理事長
 1966年、東海大学入学、アメリカンフットボール部創部メンバーの一人として活躍。1975年、社会人クラブチーム「シルバーオックス」創部。東日本社会人アメリカンフットボール協会に所属し、東日本実業団連盟との統一及び西日本社会人連盟とを統一するために東西社会人の取りまとめ役として尽力し、1985年、日本社会人アメリカンフットボール協会創設。社会人協会初代メンバー(東日本支部長・専務理事)として、トップリーグ「Xリーグ」の設立に邁進。2003年、日本社会人協会第2代理事長就任後、活性化のために、国際化や競技レベル向上に尽力し、社会人フットボールの普及・発展に貢献。

◆アメリカンフットボールの殿堂と顕彰



「アメリカンフットボールの殿堂」は、山梨県北杜市清里を開拓された故・ポールラッシュ氏を記念して作られた清泉寮内のポールラッシュ記念館内に、1996年に設立されました。これまで関東審判部は、清泉寮を数多く合宿等で利用しており、その時に殿堂を見学された方も多と思います。この殿堂の設立は今回の殿堂顕彰された笹田英次氏が推進され、それを水田吉春氏が日本協会理事として維持、拡充をされ、現在もその作業は関東審判部部員に引き継がれ、協力をしています。国内スポーツで殿堂のある他のスポーツは、野球、サッカー、柔道、剣道などでそう多くありませんが、アメリカンフットボールは、我々の先輩の努力で、約20年前に開設され80年間の競技活動の紹介がされています。

殿堂には、開設時に顕彰されたポールラッシュ氏に続いて、2004年顕彰で、松本瀧蔵氏、小川徳治氏、服部慎吾氏、安藤信和氏、羽間平安氏、米田満氏、古川明氏、篠竹幹夫氏の8名が、2009年顕彰で、井上素行氏、金澤好夫氏、松葉徳三郎氏、保科進氏、吉川太逸氏の5名が顕彰され、これまでは合計14名の諸先輩が顕彰されていました。今回2016年顕彰で新たに加わった11名で、

合計25名となりました。この中で1934年の我が国のフットボール競技開始時に組織設立等で活躍された松本瀧蔵氏（戦後、衆議院議員として、片山内閣の外務政務次官、鳩山内閣の内閣官房副長官、岸内閣の外務政務次官）は、今年2016年1月、戦後の野球界の復興の功績で、日本の野球殿堂入りをされました。

これまでの顕彰者の中で、服部慎吾氏（故人）は、戦前、立教大学のプレーヤーとして活躍、戦後、日本協会理事長を務められるとともに審判活動の組織化に貢献され、また安藤信和氏（故人）は、やはり戦前、立教大学でプレーをされ、戦後の1954年、日本アメリカンフットボール審判協会設立時の理事長として、また後に日本協会理事長を務められました。私は、お二人がご健在の時に、戦前の競技活動、これまでの審判組織の活動、フットボール界の歴史とそれぞれの時代で諸先輩の活動の努力を機会あるごとにお聞きしてきました。このお二人に続いて、今回、笹田英次氏、水田吉春氏が加わり、関東審判部としてかかわりの深い方の顕彰が4名となりました。

戦前、戦後直後は、ご承知の方も多いと思いますが、協会（連盟）の活動と審判活動は、要員面、組織面で密接にかかわりあい、活動がなされました。前記の服部慎吾氏、安藤信和氏、笹田英次氏、水田吉春氏の4名の先輩以外にも、前回までの顕彰者の松本瀧蔵氏、井上素行氏、保科進氏、そして今回の花岡淳氏の4氏（いずれも故人）が関東地区の審判員として活動され、2004年に発行した関東審判部70年史の巻末の名簿にも名前が掲載されています。今回の4名の顕彰者と合わせ、25名中8名が関東審判部、もしくはその前身の審判組織で活躍されたことになり、改めて関東審判部の歴史の重さと我が国のフットボール界における審判活動の位置を認識する次第です。

